



1 会場隣の牧之原大茶園で、今年の高品質なお茶の収穫を願い、参加者全員で「エイ、エイ、オー」と掛け声を上げた 2 天候に恵まれ、品質のよいお茶が収穫できることを願い、厳かに神事が執り行われた 3 市茶業振興協議会の西原会長（市長）は、「深蒸し茶発祥の地牧之原を大いに宣伝していきたい」とあいさつした 4 八十八夜までのカウントアップボードで立春のこの日、1日目をカウントした 5 「好きです！藤枝」の皆さんが七福神踊りを披露し会場を盛り上げた



# 八十八夜の豊作願う

静岡牧之原茶 新茶祈願祭

良質な新茶ができますようにと願いを込める

静岡牧之原茶新茶祈願祭は昨年3月30日に未曾有の凍霜害が発生し、市内でも多くの茶園が被害を受けたことから、今年は天候に恵まれ、良質な新茶が収穫できることを願い開かれたものです。

八十八夜の起点となる立春の2月4日、JAハイナン茶業センター茶ぐりん牧之原で市茶業振興協議会が主催して開催。祈願祭には、茶生産者やJAハイナンなど関係者41人が参加しました。

市茶業振興協議会の西原会長（市長）は、「いいお茶ができることを、誰もが願っています。これからも静岡牧之原茶を大いに宣伝していきます」とあいさつをしました。

神事後、色とりどりの衣装に身を包んだ「好きです！藤枝」（内田峻外幸代表・藤枝市）の皆さんが七福神踊りを披露し会場を盛り上げました。また、参加者はJAハイナン青壮年部部长鈴木達也さん（牧之原）の発声で、農作業の安全と新茶の盛況を願い、「エイ、エイ、オー」と大きな掛け声を掛けました。

鈴木さんも昨年の凍霜の被害を受けた一人。

「凍霜害で茶の木はダメージを受けましたが、水や肥料のバランスに気を配り、栽培しています。今のところ茶の葉や葉の付き具合を見ると樹勢は回復しているようです。天候に恵まれれば例年通り良質なお茶が収穫できそう。今後は肥料を十分に与え、防霜ファンの点検をして万全を期したい」と鈴木さんはことしのお茶に期待を込めました。

深蒸し茶の健康作用が注目されている今、深蒸し茶発祥地のお茶として、静岡牧之原茶を大いに広め、市の基幹産業である茶産業が活性化されることが期待されます。



茶の木の様子を確認する鈴木さん。